



平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 愛眼株式会社

コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 下條 三千夫

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長

(氏名) 佐々 昌俊

TEL 06-6772-3383

四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	4,222	3.0	51	—	85	—	56	—
27年3月期第1四半期	4,100	△0.1	△90	—	△74	—	△102	—

(注)包括利益 28年3月期第1四半期 88百万円 (—%) 27年3月期第1四半期 △93百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	2.91	—
27年3月期第1四半期	△5.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第1四半期	17,550	14,524	82.8
27年3月期	17,429	14,436	82.8

(参考)自己資本 28年3月期第1四半期 14,524百万円 27年3月期 14,436百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,611	2.6	180	—	207	—	158	—	8.14
通期	16,614	3.9	49	—	111	—	12	—	0.64

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期1Q	21,076,154 株	27年3月期	21,076,154 株
② 期末自己株式数	28年3月期1Q	1,666,846 株	27年3月期	1,666,846 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期1Q	19,409,308 株	27年3月期1Q	19,409,638 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策を背景として企業収益に改善が見られ、雇用・所得環境の改善や設備投資の持ち直しなどに伴い、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が一巡するなか消費者マインドの回復の動きや株高による資産効果などが期待されるものの、不安定な為替相場動向や中国をはじめとする海外経済の下振れ懸念などもあり、先行きは依然として不透明な状態にあります。眼鏡小売市場も緩やかに回復しつつあるものの、販売競争・価格競争などによる厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと当社グループは、早期に黒字転換を実現し、さらに持続的成長への道筋が見えるように努めてまいりました。「NEW愛眼プロジェクト」で築き上げた営業基盤を有効に活用し、対処すべき課題と真摯に向き合うことで、商品開発とサービスのレベルアップ、営業体制の効率化に鋭意取り組んでおります。

この結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の売上高が増加に転じたことにより、売上高は4,222百万円（前年同四半期比3.0%増）となりました。また、売上総利益率は0.5%改善し、広告宣伝費や人件費などの営業経費の支出が減少したことによって、営業利益は51百万円（前年同四半期は営業損失90百万円）、経常利益は85百万円（前年同四半期は経常損失74百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は56百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失102百万円）となりました。今後ともお客様の支持が得られる店づくりの推進と一層のコスト削減に取り組み、収益基盤の強化に努めてまいります。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

[眼鏡小売事業]

当社グループの中核である国内眼鏡小売業においては、2012年から「NEW愛眼プロジェクト」をスタートさせ、お客様の嗜好やライフスタイルを優先した「アイスタイリング・サービス」を掲げ、事業戦略を進めており、新ビジュアルアイデンティティの導入、店名ロゴの変更、清潔感のある店舗の開設とリニューアル、メガネ一式価格「スマートプライス」による明瞭な価格表示、ニーズを集約したオリジナルブランド品の提供、マス媒体やTポイントを活用した広告宣伝などさまざまな営業施策に取り組んでまいりました。プロジェクトの完遂には未だ道半ばですが、今年度は、着実に改善してきている商品、サービス、店舗、人材をはじめとする営業基盤を梃子に、「NEW愛眼プロジェクト」によって増加したニューファミリー層やヤング層に対する取り組みを継続しつつ、従来から固定客の中心を占めるミドル、シニア層に照準を合わせた商品力、技術力、接客力によるアプローチを併行して推進しております。また、当社の強みであるカウンセリングが活かせ、眼鏡販売との相乗効果も期待できる補聴器の取り扱いを同時に強化することで、シニア層の需要掘り起こしを図ってまいりました。

売上高に関しては、幅広い年齢層のお客様のニーズを取り込んだ新規商品の開発・投入と品揃えの拡充により、販売単価が改善し、売上高は増加しました。また、補聴器の売上高は、シニア層の需要増加を見込んだレンタルや販売促進の実施により、順調に推移しました。一方、売上総利益率は、オリジナル品を中心とした商品構成や集中販売などを進め改善しました。

店舗に関しては、新規に1店舗を開設し、1店舗を閉鎖しました。また、改修補強を1店舗で実施する一方、店舗と本部の業務プロセスの効率化・省力化を目指した店舗・本部間のシステム更改プロジェクトが進行中であり、来春に本稼動を予定しております。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は4,012百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益は68百万円（前年同四半期はセグメント損失67百万円）となりました。

[写真館事業]

当社直営の「愛写館」3店舗による写真館事業は、幅広い年代、階層のお客様の記念写真・家族写真の撮影やアルバム制作をはじめ、美容着付け、衣装レンタルなどにも対応する総合写真館を目指しています。当第1四半期連結累計期間においては、秋の七五三や新春の成人式の早期着物レンタルや前撮り予約会を開催するほか、WEB割引クーポンやインターネット・SNS媒体を活用した広告宣伝を通じ客数増加に注力いたしました。

この結果、写真館事業における売上高は、店舗数が前年同期より2店舗減少したことも影響し、24百万円（前年同四半期比20.8%減）、セグメント損失は12百万円（前年同四半期はセグメント損失20百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は17,550百万円、負債合計は3,026百万円、純資産合計は14,524百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が32百万円増加し、純資産合計が88百万円増加した結果、自己資本比率は82.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年5月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,702	4,690
受取手形及び売掛金	753	822
商品及び製品	2,355	2,295
原材料及び貯蔵品	29	29
その他	130	200
貸倒引当金	△7	△7
流動資産合計	7,964	8,030
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,162	1,154
土地	1,900	1,900
リース資産(純額)	68	65
その他(純額)	23	20
有形固定資産合計	3,155	3,141
無形固定資産		
リース資産	—	44
無形固定資産合計	—	44
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,883	3,860
投資有価証券	1,686	1,733
その他	739	740
投資その他の資産合計	6,309	6,333
固定資産合計	9,464	9,520
資産合計	17,429	17,550

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	540	585
1年内返済予定の長期借入金	60	60
未払法人税等	118	53
賞与引当金	—	60
その他	1,083	1,062
流動負債合計	1,802	1,821
固定負債		
長期借入金	285	270
繰延税金負債	69	83
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	350	349
リース債務	298	317
その他	179	176
固定負債合計	1,190	1,204
負債合計	2,993	3,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,312	5,369
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,702	16,758
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	160	192
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	45	45
その他の包括利益累計額合計	△2,265	△2,234
純資産合計	14,436	14,524
負債純資産合計	17,429	17,550

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自平成26年4月1日 至平成26年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自平成27年4月1日 至平成27年6月30日）
売上高	4,100	4,222
売上原価	1,284	1,300
売上総利益	2,815	2,921
販売費及び一般管理費	2,905	2,870
営業利益又は営業損失（△）	△90	51
営業外収益		
受取利息	4	5
受取配当金	6	6
受取家賃	13	16
その他	10	16
営業外収益合計	34	44
営業外費用		
支払利息	1	1
固定資産除却損	3	0
賃貸費用	12	9
その他	1	0
営業外費用合計	18	11
経常利益又は経常損失（△）	△74	85
特別利益		
投資有価証券売却益	0	4
特別利益合計	0	4
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△74	89
法人税、住民税及び事業税	28	33
法人税等調整額	△0	△0
法人税等合計	27	33
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△102	56
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△102	56

（四半期連結包括利益計算書）
（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△102	56
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	13	31
為替換算調整勘定	△5	0
その他の包括利益合計	8	31
四半期包括利益	△93	88
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△93	88
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,877	30	3,907	192	4,100	—	4,100
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	18	18	△18	—
計	3,877	30	3,907	211	4,118	△18	4,100
セグメント利益又は損失(△)	△67	△20	△87	0	△87	△3	△90

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△6百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自平成27年4月1日至平成27年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	眼鏡小売	写真館	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,012	24	4,037	184	4,222	—	4,222
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	20	20	△20	—
計	4,012	24	4,037	205	4,242	△20	4,222
セグメント利益又は損失(△)	68	△12	55	△2	53	△2	51

(注) 1 その他の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、卸売事業等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△5百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。